

除去土壌の再生利用等に関する理解醸成について

令和4年3月30日
環境省

目次

1. 理解醸成等の取組状況
2. WEBアンケート

1. 理解醸成等の取組状況(一覧)

(1) 現場公開

①実証事業現場視察

②一般の方向け見学会

③その他

(2) 除去土壌の再生利用等に関する「対話フォーラム」の開催

(3) 再生利用実証事業で栽培された花の活用

(4) 福島県内除去土壌を用いた鉢植え、プランターの設置

(5) 理解醸成を図るための講義等の実施

(6) 福島再生現地確認見学WSの開催

(7) 情報公開の取組

①長泥地区再生利用実証事業モニタリング結果の公開

②「福島、その先の環境へ。」サイトへの現地見学会情報ページの新設

(8) 広報誌等の掲載(環境省広報誌)

(9) 福島の未来に向けたチャレンジを発信する「FUKUSHIMA NEXT」

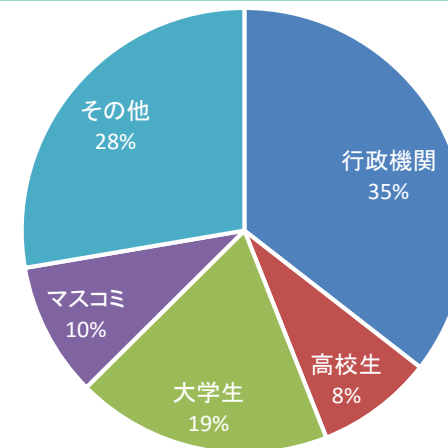
1. 理解醸成等の取組状況

(1) 現場公開 (① 実証事業現場視察)

- 飯舘村長泥地区における再生利用実証事業の現場視察を団体や教育機関等に対して実施。本年2月末時点でのべ625名(次スライドの一般の方向け見学会を除く)の視察対応を行った。

➤ 参加者実績 (一部抜粋)

- ・ 福島県立3校(安積高校、福島高校、ふたば未来学園) (2021/8/17)
- ・ 福島高専 (2021/8/25)
- ・ 福島高専・新潟大学・熊本高専 (2021/10/16)
- ・ 筑波大学生命環境系 アイソトープ環境動態研究センター (2021/11/3)
- ・ ダボス会議グローバルシェイパーズメンバー (2021/11/12)
- ・ 福島県立須賀川桐陽高校 (2021/11/13)



視察者の内訳について



安積高校、福島高校、ふたば未来学園
(2021/8/17)



ダボス会議グローバルシェイパーズメンバー
(2021/11/12)

1. 理解醸成等の取組状況

(1) 現場公開 (②一般の方向け見学会)

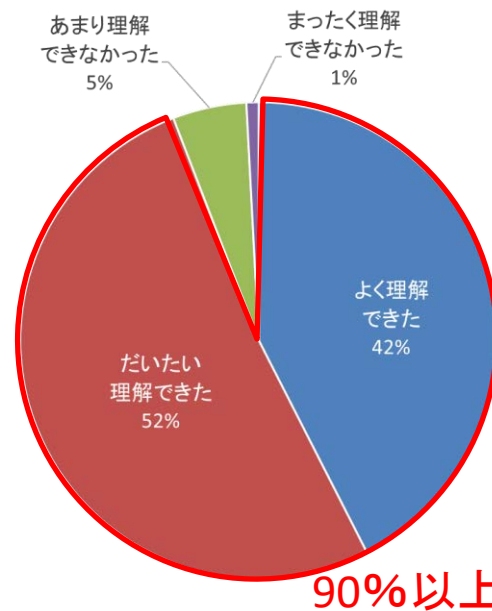
- 長泥地区環境再生事業に対する認知度や理解度を高めるため、一般の方向けの現地見学会を2021年7月から11月までに計12回開催し、計126名※¹の方に御参加いただいた。本見学会は本年3月より再開。
- 「見学会に参加して、長泥再生実証事業に対して、理解されましたか。」という設問に対して、「よく理解できた・だいたい理解できた」と回答した方は90%以上に及んだ。

- ・開催実績 : 2021年7月 : 4回、2021年8月以降 : 月2回ずつ※²
- ・参加人数 : 7月 : 49名、8月 : 10名、9月 : 12名、10月 : 24名、11月 : 31名 (2021年実績)

アンケートについて

【アンケートでいただいた感想・意見】

- ・丁寧な説明でわかりやすかった。
- ・飯舘村を皮切りに他市町村でも再生利用がされればと願う。
- ・科学的に安全性が確認できれば、良いと思う。
- ・データを開示し、国民の理解を得る必要がある
- ・不安が残る、安全性が理解できない等



見学の様子について

※¹: 見学者の内訳は、県内107人、県外19人となっている。
※²: 2021年12月～2022年2月は冬期期間のため開催せず。

1. 理解醸成等の取組状況

(1) 現場公開 (③その他、大臣等による現場視察)

- 福島県飯舘村長泥地区における再生利用実証事業現場を視察。
- 野菜や花の栽培実験に携わっている地元住民との意見交換も適宜実施。

〈最近の主な視察〉

- ・ 1月29日(土) 西銘復興大臣
- ・ 2月2日(水) 新妻復興副大臣
- ・ 2月12日(土) 山口環境大臣、務台環境副大臣



西銘復興大臣 (1/29)



新妻復興副大臣(2/2)



山口環境大臣、務台環境副大臣(2/12)

1. 理解醸成等の取組状況

(2) 除去土壌の再生利用等に関する「対話フォーラム」の開催

知っていただきたい
福島
の課題が
あります。
「除去土壌」の
これから。

福島、
その先の
環境へ。
対話フォーラム

福島県内で発生した除去土壌等の30年以内県外最終処分を実現するため、減容・再生利用の必要性及び安全性について全国での理解醸成活動を抜本的に強化。
その一環として今年度より対話フォーラムを行っており、これまで4回開催した。

「福島、その先の環境へ。」対話フォーラム 開催結果概要

第1回

日 程	2021年5月23日(日) 13:00 ~ 14:52
開 催 形 式	全面オンライン開催
プ ロ グ ラ ム	①動画「福島、その先の環境へ。」上映 ②環境省プレゼンテーション ③大熊・双葉両町長のメッセージビデオ ④パネルディスカッション ・チャットでの質問について回答(3問) など
パ ネ リ ス ト	小泉環境大臣、高村昇氏(長崎大学)、 開沼博氏(東京大学)、なすび氏(タレント)、 カンニング竹山氏(お笑い芸人) ほか
参 加 者	オンライン参加(事前登録あり): 674名 オンライン視聴(事前登録なし): 321名 ※終了後もアーカイブ動画を配信し、視聴数は3,500超(2022/3/28現在)

Youtube
アーカイブ動画
QRコード(URL)



<https://www.youtube.com/watch?v=GWOiEXFX24Q>



第2回

日 程	2021年9月11日(土) 14:00 ~ 16:00
開 催 形 式	全面オンライン開催
プ ロ グ ラ ム	①動画「福島、その先の環境へ。」上映 ②環境省プレゼンテーション ③大熊・双葉両町長のメッセージビデオ ④対話セッション ・チャットでの質問について回答(17問) など
パ ネ リ ス ト	小泉環境大臣、高村昇氏(長崎大学)、 関谷直也氏(東京大学)、 岡田結実氏(女優・タレント) ほか
参 加 者	オンライン参加(事前登録あり): 636名 オンライン視聴(事前登録なし): 264名 ※終了後もアーカイブ動画を配信し、視聴数は2,900超(2022/3/28現在)

Youtube
アーカイブ動画
QRコード
(URL)



<https://www.youtube.com/watch?v=gkr5xf0dopU>



1. 理解醸成等の取組状況

(2) 除去土壌の再生利用等に関する「対話フォーラム」の開催

「福島、その先の環境へ。」対話フォーラム 開催結果概要

第3回

第4回

日 程	2021年12月18日(土) 14:00 ~ 16:00	日 程	2022年3月19日(土) 14:00 ~ 16:00
会 場	名古屋国際会議場 (愛知県名古屋市)	会 場	博多国際展示場&カンファレンスセンター (福岡県福岡市)
プ ロ グ ラ ム	①環境省プレゼンテーション ②大熊・双葉両町長のメッセージビデオ ③対話セッション ・対話ボードやライブチャットでの質問について回答 (会場、オンライン合わせて約161件の御意見・御質問) など	プ ロ グ ラ ム	①環境省プレゼンテーション ②大熊・双葉両町長のメッセージビデオ ③対話セッション ・対話ボードやライブチャットでの質問について回答 (会場、オンライン合わせて約165件の御意見・御質問) など
パ ネ リ ス ト	山口環境大臣、室石環境再生・資源循環局長、高村昇氏 (長崎大学)、開沼博氏 (東京大学)、箭内夢菜氏 (女優・タレント) ほか	パ ネ リ ス ト	山口環境大臣、室石環境再生・資源循環局長、高村昇氏 (長崎大学)、開沼博氏 (東京大学)、カンニング竹山氏 (お笑い芸人) ほか
参 加 者	会場参加者：73名 オンライン参加 (事前登録あり)：130名 オンライン視聴 (事前登録なし)：136名 ※終了後もアーカイブ動画を配信し、視聴数は1,300超 (2022/3/28現在)	参 加 者	会場参加者：41名 オンライン参加 (事前登録あり)：109名 オンライン視聴 (事前登録なし)：127名

Youtube
アーカイブ動画
QRコード (URL)



<https://www.youtube.com/watch?v=YtqxCMzdOco>



Youtube
アーカイブ動画
QRコード (URL)



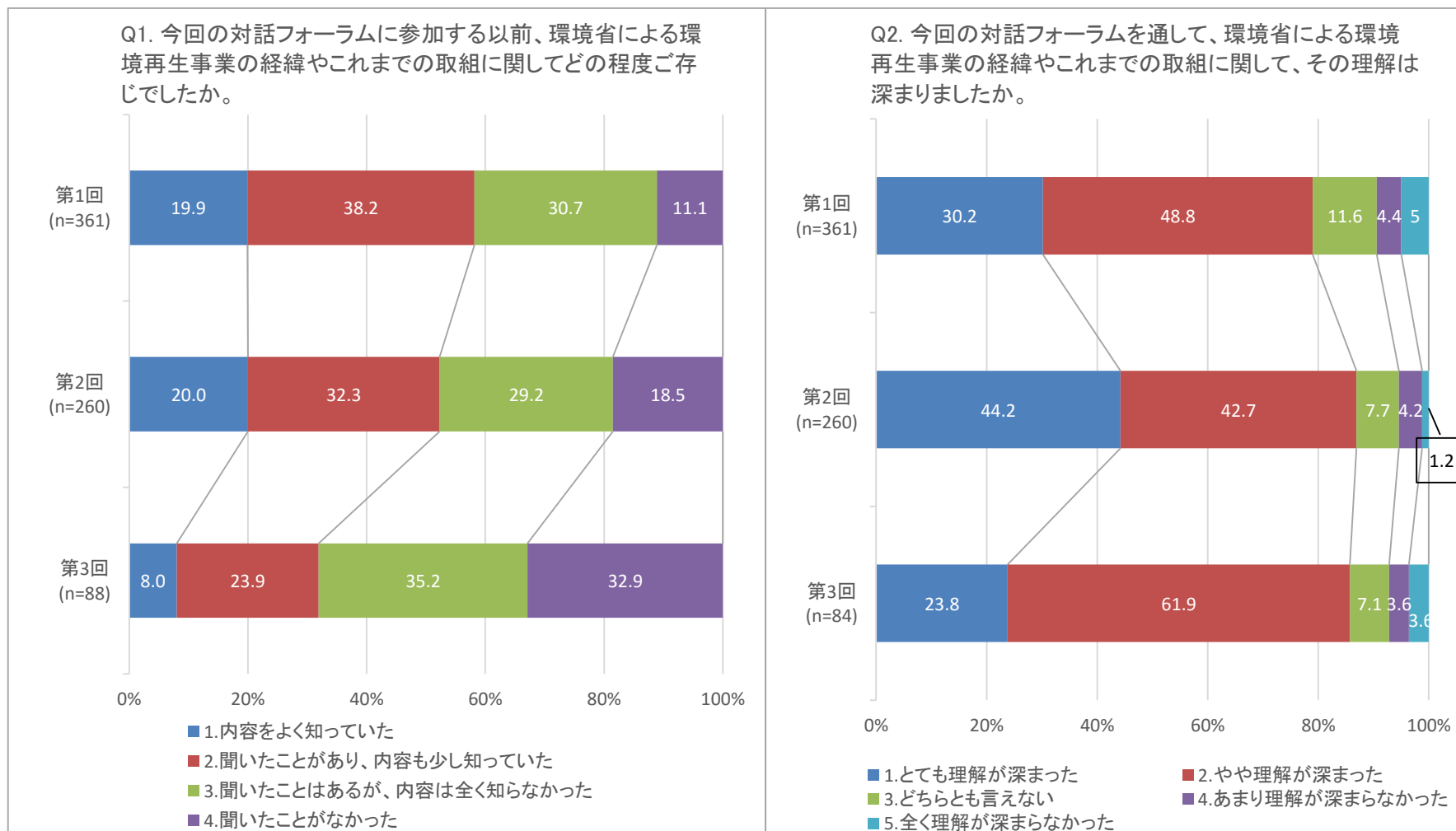
<https://www.youtube.com/watch?v=oRSKAWp4VmE>



1. 理解醸成等の取組状況

(2) 除去土壌の再生利用等に関する「対話フォーラム」アンケート結果(抜粋)

参加前に環境再生事業の認知、参加後に理解の深まりについてアンケートを実施。



1. 理解醸成等の取組状況

(3) 再生利用実証事業で栽培された花の活用

- 飯舘村長泥地区における再生利用実証事業で栽培された花を、公共施設やイベント等で展示し、情報発信を行った。



福島交通飯坂線福島駅での設置
(令和3年10月4日～3週間程度)



第2回「福島マルシェ」
ふくしま物産展新宿
ホテルリステル新宿内
令和3年11月20日(土)
～21日(日) 展示



第3回対話フォーラム
名古屋国際会議場展示
(愛知県名古屋市)
令和3年12月18日(土)
※対話フォーラムでは、
毎回長泥の花を展示



飯舘村視察でいただいたお花、
ドライフラワーを大臣室に
令和4年2月17日より展示



「福島、その先の環境へ。」展
新宿御苑インフォメーションセンター 展示
令和3年12月18日(土)～19日(日) 展示



飯舘村村長室に令和4年3月2日
より展示

<https://www.vill.iitate.fukushima.jp/site/photonews/7594.html>

1. 理解醸成等の取組状況

(4) 福島県内除去土壌を用いた鉢植え、プランターの設置

- 除去土壌の再生利用の理解醸成を図るため、各所に除去土壌を用いた鉢植え、プランターを設置した。



※この他、復興庁（東京都千代田区）、環境調査研修所（埼玉県所沢市）、自民党本部（東京都千代田区）、公明党本部（東京都新宿区）にも鉢植えを設置

1. 理解醸成等の取組状況

(5) 理解醸成を図るための講義等の実施

目的

次世代の若い世代に向けた理解醸成を図ることを目的として、全国の大学や高校等と連携して講義等を実施。

事業の主な実施場所

全国の中学、高校、高専、大学等合計33校



WEBによる講義風景

実施概要

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からWEBによる講義や、学校側の許可のもと対面講義を実施した。約150コマに相当する講義に約1,300名の学生が受講した。講義では、除去土壌等の中間貯蔵施設への運搬、除去土壌等の再生利用、現在実施されている実証事業（南相馬、飯館）などの説明を行い、質疑を中心とした講義を行った。



対面による講義風景

受講生の感想

科学的な観点だけでなく、住民の感情も理解しながら進めていく必要がある。/ 土壌の汚染物質を除去できるような技術の開発が急がれるべき。/ 悩んだり困ったりしている人の力になれるような職種について考えてみたい。/ 未だに多くの課題を抱えている事実を知り、これは被災者だけの問題では無いのできちんと目を向けていかなくてはならない。/ 自らが現地に実際に行くことの大切さを知った。等

評価

質疑を行う対面講義では知識定着率が高い。家族等に話すことを促して多面的展開を図った。

1. 理解醸成等の取組状況

(6) 福島再生現地確認見学WSの開催

行程

<福島県外学生>

日程：第1回 令和3年11月1日～3日／第2回 令和3年12月20日～22日 参加人数：約30名、関係者15名

内容：飯舘村長泥地区環境再生事業、双葉町東日本大震災原子力災害伝承館、廃炉資料館、中間貯蔵施設、
中間貯蔵工事情報センター、リプルンふくしま等の見学、話題提供、インタビュー、ワークショップ

<福島県内学生>

日程：令和3年8月25日～26日、令和3年10月16日、令和3年12月11日、令和4年3月5日 参加人数：約40名、関係者約10名

内容：中間貯蔵施設、中間貯蔵工事情報センター、飯舘村長泥地区環境再生事業、特定復興拠点等の見学、地域住民との対話、
意見交換会、ワークショップ



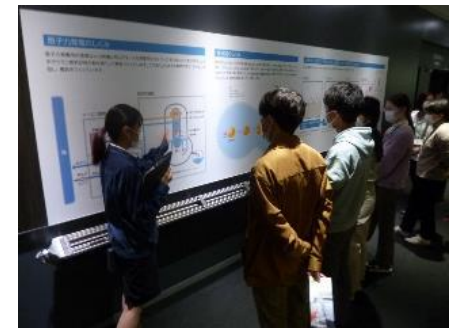
再生利用実証事業場
(福島県飯舘村長泥地区)



東日本大震災・原子力災害伝承館



中間貯蔵施設



東京電力廃炉資料館



Jヴィレッジでのワークショップの様子



現地見学の様子を撮影し、動画「TO KNOW TO TELL」を作成
抜粋版の映像を対話フォーラムで放送
映像素材をもとに、WEB CMを作成し、youtubeで広告配信
フル尺版は今後、「その先の環境へ」サイトにて公開予定。

1. 理解醸成等の取組状況

(7) 情報公開の取組 (①長泥地区再生利用実証事業モニタリング結果の公開)

- 令和3年4月から開始した盛土造成工事にあわせ、中間貯蔵情報サイトにて各種モニタリング結果の公開を開始した。
- 具体的には、「再生資材化施設」「再生資材」「盛土造成場所」「栽培実験場所」「水田試験実施場所」における空間線量率、空気中や排水の放射濃度結果等を公開。

(HP掲載イメージ)

■ モニタリング結果：空間線量率（周辺環境）

最新のモニタリング値（2021年11月測定）

▶ 測定地点を見る

クリックで測定位置を表示

測定日	空間線量率 (μSv/h)				
	測定地点①	測定地点②	測定地点③	測定地点④	測定地点⑤
2021/11/5	0.23	0.23	0.65	0.19	0.21
2021/11/12	0.24	0.22	0.61	0.17	0.21
2021/11/19	0.24	0.22	0.62	0.16	0.22
2021/11/26	0.24	0.22	0.65	0.18	0.23

空間線量率（周辺環境） 測定地点



▼ 全期間の測定値を見る

クリックで過去の測定結果を表示可能

1. 理解醸成等の取組状況

(7) 情報公開の取組 (2) 「福島、その先の環境へ。」サイトへの現地見学会情報ページの新設

- 環境省の「福島、その先の環境へ。」サイトにおいて、福島県内の環境再生に関わる施設や事業の現地見学会情報ページを新設（2021年7月）。
- 具体的には、①飯館村長泥地区環境再生事業②中間貯蔵施設③特定廃棄物埋立処分施設・特定廃棄物セメント固型化処理施設の各見学会情報を集約し、相乗効果による集客力強化を図った。また、その他環境省特設サイトへも導線を配置し、アクセス性向上を図った。

【「福島、その先の環境へ。」サイト現地見学会情報ページの一部】



【導線配置例(中間貯蔵施設情報サイト)】



現地見学会情報ページ
(「福島、その先の環境へ。」サイト)



<http://shiteihaiki.env.go.jp/tukushimamirai/sonosaki/opentour/>

タブをクリックして 現地見学会情報ページへ

➢ 中間貯蔵施設情報サイト
<http://josen.env.go.jp/chukanchozou/>

各見学会情報を掲載し、申込み先サイトへのリンクバナーを配置

1. 理解醸成等の取組状況

(8) 広報誌等の掲載(環境省広報誌)

- 広報誌「ふくしま環境再生」において、中間貯蔵施設について掲載(2022年2月)
- 「飯舘村長泥地区運営協議会便り」Vol. 3にて、協議会の様子や事業の進捗状況等を報告

中間貯蔵施設の見学会について 2022.2月

ふくしま環境再生 Vol.21



中間貯蔵施設は、福島県内の除染で発生した土壌や廃棄物を最終処分するまでの間、安全かつ集中的に貯蔵するための施設です。工事の進捗状況や安全への取組等、中間貯蔵工事の今をご覧いただける見学会を定期的に月4回(令和3年度)実施しています。今回は、見学会当日の流れをご紹介します。

中間貯蔵施設見学会のスケジュール(大観コース/午前の部)

10:20~ 中間貯蔵工事情報センター 集合・受付	10:30~ オリエンテーション (約30分)	11:00~ 中間貯蔵施設の見学 (約60分)
---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

10:20~ 中間貯蔵工事情報センター集合・受付
飯舘区域へ向かうため、受付時に身分の確認をお願いします。

10:30~ オリエンテーション(約30分)
施設の概要を説明、中間貯蔵工事(除去土壌等の搬送、貯蔵、貯蔵、再生利用の取組など)を動画でご覧いただきます。

11:00~ 中間貯蔵施設の見学(約60分)
マイクロバスに乗車して、スタッフの案内を聞きながら中間貯蔵施設の区域を見学します。途中降車して、施設の稼働状況を見学できます。

12:20頃 中間貯蔵工事情報センター解散
ご参加いただきありがとうございました。

サンライズにおくま(印刷製図人形入場)
開催して見学できます。

見学会の開催のご案内
見学会の開催は、パリスにある橋本スクリーンニングで受け付けを行います。

大観コース・児童コース
大観コース: 10:20~12:20(集合時間 10:10) 13:30~15:30(集合時間 13:20)
児童コース: 10:20~12:20(集合時間 10:10) 13:30~15:30(集合時間 13:20)
※ 詳細については、専用ホームページをご覧ください。必要事項についてメールまたはFAXでお申込みください。

見学会の開催日時
開催日時: 令和3年2月22日(火)20時56分~ 福島県産(90分)
※ 乗船の詳細は、要項をご覧ください。

案内のおすすめポイント!

大観町・茨城県町の住民の皆様へ
大観町・茨城県町の住民の皆様へ、中間貯蔵施設の見学を案内させていただきます。大観町・茨城県町の住民の皆様へ、中間貯蔵施設の見学を案内させていただきます。

大観町・茨城県町の住民の皆様へ
大観町・茨城県町の住民の皆様へ、中間貯蔵施設の見学を案内させていただきます。大観町・茨城県町の住民の皆様へ、中間貯蔵施設の見学を案内させていただきます。

大観町・茨城県町の住民の皆様へ
大観町・茨城県町の住民の皆様へ、中間貯蔵施設の見学を案内させていただきます。大観町・茨城県町の住民の皆様へ、中間貯蔵施設の見学を案内させていただきます。

その他の、本年度の水田試験の内容や、長泥地区の復興再開に向けてどのように取り組んでいくのかというトピックがでてきました。主にコメントがあったのは以下のようなものでした。

- ✓ 本年度の水田試験の計画は、専門家と内容を協議して試験方法を検討してもらいたい。
- ✓ 長泥地区の土地利用について、村や行政も含めて検討してもらいたい。
- ✓ 長泥地区の復興再開に向けたスケジュールや計画について文書の協議会で示してもらいたい。

● 長泥地区運営協議会とは?
この協議会は、正式名称を「飯舘村長泥地区環境再生事業運営協議会」と言います。目的は、長泥地区の環境再生事業を安全・安心に実施しながら、復興の加速を図るため、関係者間で協議を行うことによるものです。協議会の役割は、関係者間の協議を行うことです。協議会の役割は、関係者間の協議を行うことです。

● 飯舘村長泥地区の環境再生事業でやっていることは?
飯舘村長泥地区の復興に向けた事業のことです。具体的には、環境再生の計画や実施に関する協議や、関係者間の連携を図るための取り組みを行っています。具体的には、環境再生の計画や実施に関する協議や、関係者間の連携を図るための取り組みを行っています。

環境再生事業の進め方
環境再生事業の進め方について、関係者間の協議や、関係者間の連携を図るための取り組みを行っています。具体的には、環境再生の計画や実施に関する協議や、関係者間の連携を図るための取り組みを行っています。



こんにちは!
環境省福島地方環境事務所の編集者さくかわです。飯舘町と3月9日に飯舘村長泥地区運営協議会便りを発行させていただきました。令和3年12月3日(金)に第12回飯舘村長泥地区環境再生事業運営協議会が開催されたこと、その様子を報告させていただきます。

飯舘村長泥地区運営協議会で、報告されたことと決まったこととは?

1. 環境省から、現在の事業の進捗について報告しました。
 2. 環境省から、野原の栽培実験の結果について報告しました。
 3. 環境省から、水田の検証を推進するための試験の実施について報告しました。
- 1. 現在の事業の進捗状況について**
環境省からは、現在の事業の進捗状況について報告しました。具体的には、環境再生の計画や実施に関する協議や、関係者間の連携を図るための取り組みを行っています。
- 2. 野原の栽培実験の結果について**
野原の栽培実験の結果について報告しました。具体的には、環境再生の計画や実施に関する協議や、関係者間の連携を図るための取り組みを行っています。
- 3. 水田の検証を推進するための試験について**
水田の検証を推進するための試験について報告しました。具体的には、環境再生の計画や実施に関する協議や、関係者間の連携を図るための取り組みを行っています。

ピピロ! 長泥地区環境再生事業の一般向け見学会の開催について
長泥地区環境再生事業の一般向け見学会の開催について、環境省から案内されています。具体的には、環境再生の計画や実施に関する協議や、関係者間の連携を図るための取り組みを行っています。

ピピロ! 福島県内の高校生が長泥に参観しました!
福島県内の高校生が長泥に参観しました。具体的には、環境再生の計画や実施に関する協議や、関係者間の連携を図るための取り組みを行っています。

(出典) http://josen. env. go. jp/plaza/info/monthly/pdf/monthly_2202. pdf
http://josen. env. go. jp/chukanchozou/facility/recycling/project_iitate/pdf/kyogikai-dayori_03. pdf

1. 理解醸成等の取組状況

(9) 福島の実現に向けたチャレンジを発信する「FUKUSHIMA NEXT」

- 福島に対する風評払拭や環境先進地へのリブランディングにつなげるため、福島において、未来に向けてチャレンジする姿を発信する、「FUKUSHIMA NEXT」の取組を推進
- これらの活動の公募を実施し、環境大臣賞3人(組)(国際高校生放射線防護ワークショップ等の活動)、福島県知事賞に3人(組)(カーボンニュートラルを目指した日本式デジタルものづくり等の活動)が選ばれ、12月3日開催の「福島再生・未来志向シンポジウム」にて表彰状の授与
- 今後も、これらの優良な取り組みをさまざまなメディアを通じて発信



FUKUSHIMA NEXT表彰された皆様

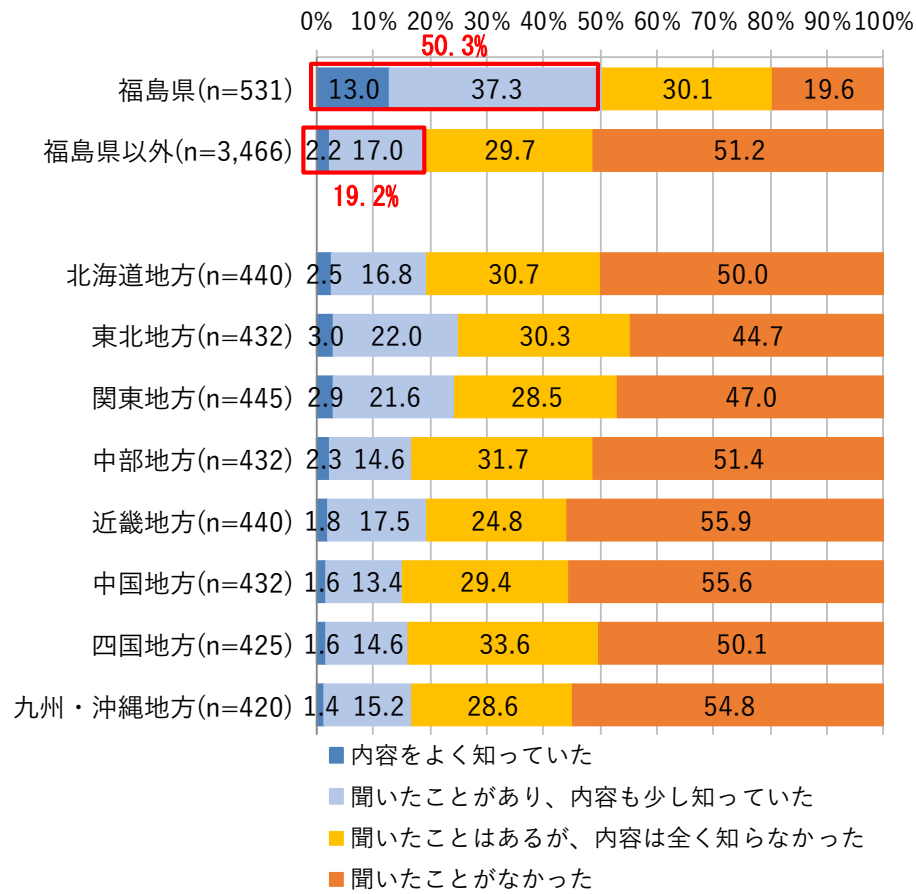
2. WEBアンケート (概要)

- 目的：除去土壌の再生利用に関する現状の関心や認知度等について、全国的なWEBアンケート調査を、平成30年度以降、毎年実施。
- 実施期間：令和4年2月14日（月）～ 3月1日（火）
- 対象者：20代～70代の男女
 - ✓ 令和3年度回答者：4,613名 ※（福島県以外：3,978名、福島県：635名）
北海道：494名、東北（福島県除く）：488名、関東：506名、中部：508名、近畿：517名、中国：492名、四国：494名、九州・沖縄：479名
 - ※令和3年度で4回目となる本WEBアンケートは、令和3年度からの新規回答者の他に、2年連続（令和2年度、令和3年度）回答者、3年連続（平成31年度、令和2年度、令和3年度）回答者、4年連続（平成30年度、平成31年度、令和2年度、令和3年度）回答者を含んでおり、内訳は以下のとおり。
 - ・新規回答者数：1,659名（福島県以外：1,403名、福島県：256名）
 - ・2年連続回答者数：1,127名（福島県以外：956名、福島県：171名）
 - ・3年連続回答者数：1,676名（福島県以外：1,525名、福島県：151名）
 - ・4年連続回答者数：151名（福島県以外：94名、福島県：57名）
 - ✓ 令和2年度回答者：3,997名 ※（福島県以外：3,466名、福島県：531名）
北海道：440名、東北（福島県除く）：432名、関東：445名、中部：432名、近畿：440名、中国：432名、四国：425名、九州・沖縄：420名
- 質問事項
 - ✓ 令和3年度、令和2年度継続質問事項
Q1～Q16、Q24～Q25
 - ✓ 令和3年度新規質問事項
Q17～Q19、Q20、Q21～Q23

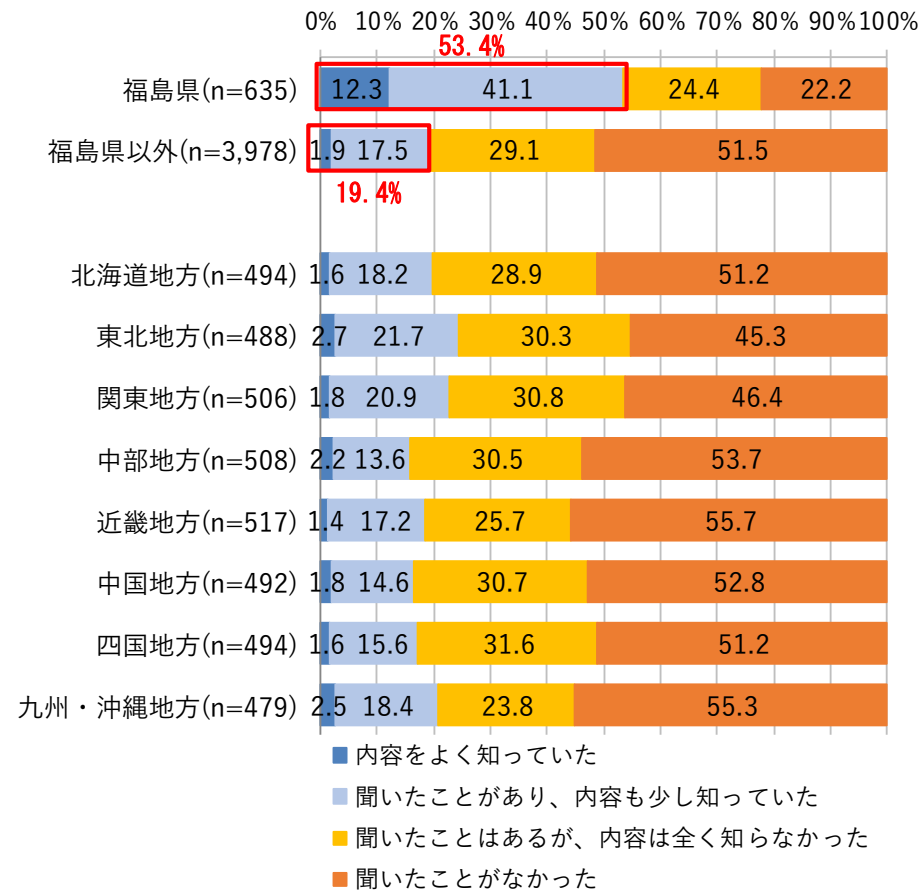
Q1 : あなたは、除去土壌等が中間貯蔵開始後30年以内に福島県外において最終処分されると法律で定められていることをどの程度ご存知でしたか。

- 概ね、昨年度と同様の傾向。
- 福島県では「内容をよく知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」のあわせた回答は約5割、福島県以外では、約2割となっている。

【令和2年度】



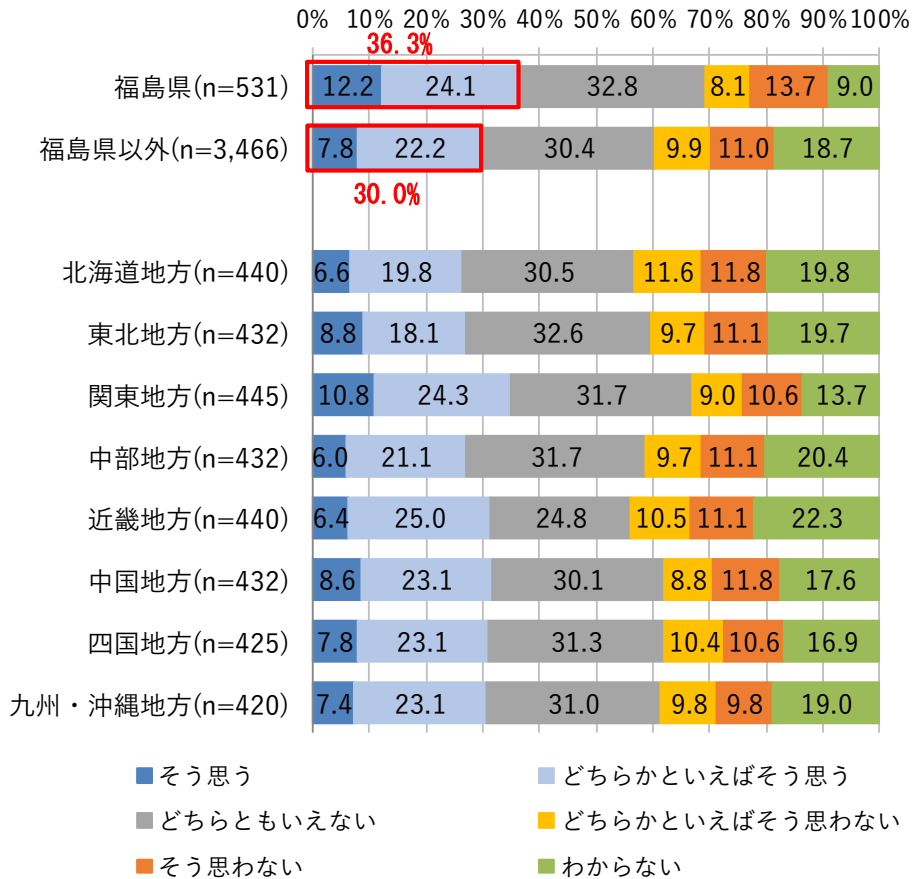
【令和3年度】



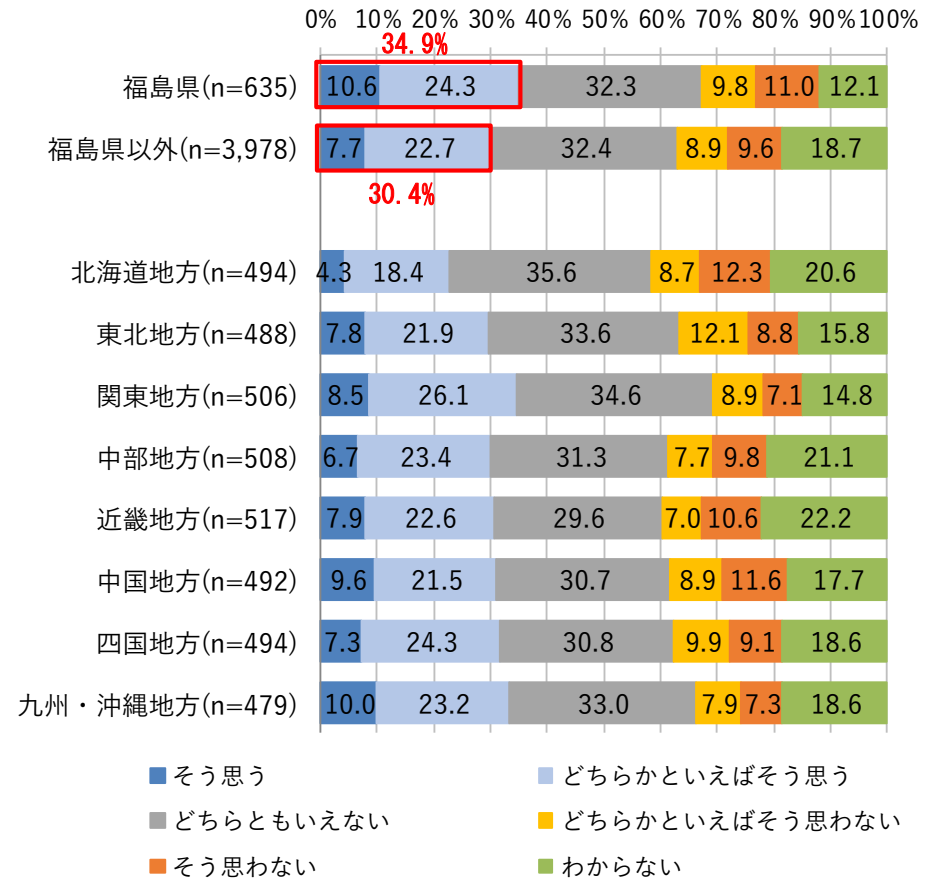
Q6：あなたは、除去土壌を再生利用する必要があると思いますか。

・概ね、昨年度と同様の傾向である。
 ・どの地域も、「どちらともいえない」「わからない」との回答が5割前後を占めている。

【令和2年度】



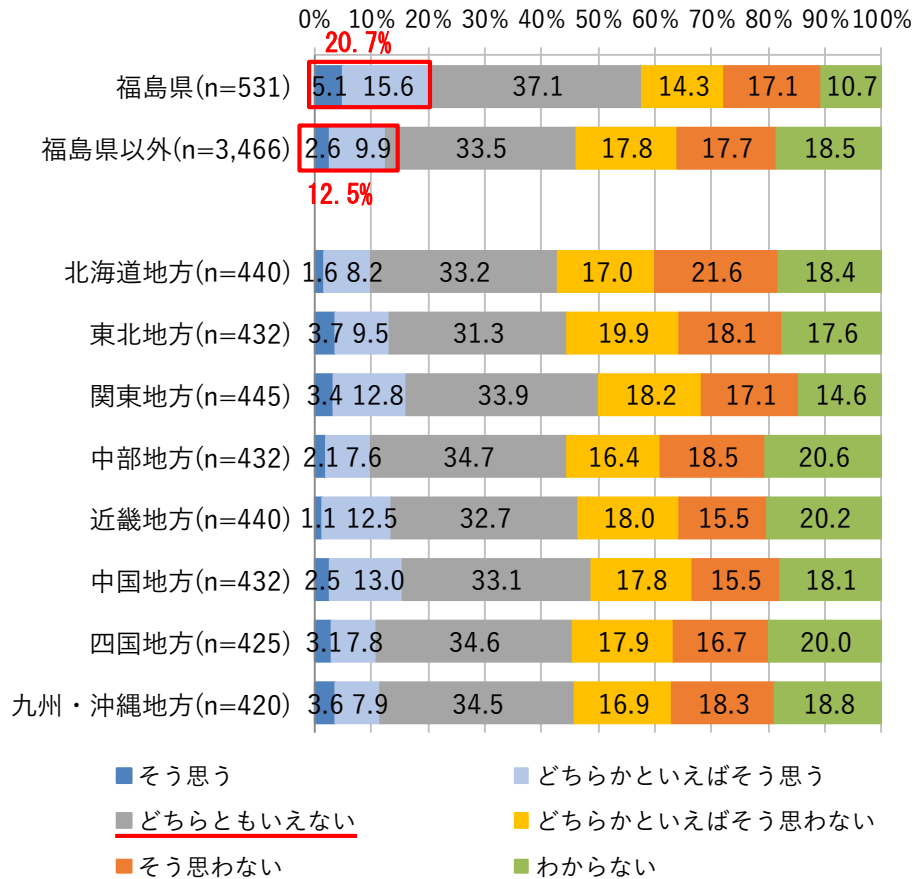
【令和3年度】



Q7：あなたは、除去土壌の再生利用は安全だと思いますか。

・昨年度に比べ、福島県以外では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答が若干増加している。
 ・どの地域も、「どちらともいえない」「わからない」との回答が5割前後を占めている。

【令和2年度】



【令和3年度】

